
ラジオコントロール

Elcano

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラジオコントロール

【コード】

N83030

【作者名】

Elcano

【あらすじ】

久しぶりに会ったクラスメートは、いまだにラジオコンに夢中だった。

「五月にしてはまだ肌寒いな。」

春の陽射しを受けながら、一人の男が歩いている。毎週日曜日の午後は決まって散歩にでる。

護岸整備された河原を歩きながら、ふと見覚えのある顔を見つけて立ち止まった。

高校で同じクラスメートの澤田だった。積極的に付き合っていたわけではないが知らぬ仲でもない。

「あいつ、学生の時はラジコンに夢中だったな。そのせいで成績は下の方だったはずだ。」

近づいていくと学生の時と変わらず、ラジコンのコントローラをもっている。その前方に、ヘリコプターの模型が悠々ととんでいる。そのヘリコプターを8才くらいの子供が楽しそうに笑いながら追いかけている。

「おい、澤田。俺だよ」

久しぶりに見る澤田の顔は酷くやつれていた。

「お前か。久しぶりだな。」

久しぶりの再会を澤田はなんとも思っていないようだった。コントローラを忙しそうに動かしている。

こちらにも、無視はできまいくらいにしか思っていなかったため、特にその反応に不満はなかった。

「あれは君が作ったのか？」

私は前方を指差した。

「そうとも。」

「君は昔からラジコンに夢中だったね。あのくらいの物は作るのにどのくらいかかるんだ？」

見た目は市販の物と比べても大差ないようだ。

「約三年ほどかかったよ。設計から材料調達など全て一人でやったからね。」

「ふーん、意外とかかるもんなんだな。」

「動かすだけなら簡単なんだがな。リアリティを追求するときりがない。」

ようやくテスト段階さ。」

市販の物を買った方が早いと思った。しかし、手作りの味というものがあるのだろう。

「あれ、電池が切れたかな？」

澤田はそう言うとヘリコプターの方へ歩きだした。

そちらに目を向けると、まだヘリコプターは力強く飛び続けていた。ふと視線を下に向けると、先程の子供が笑ったまま倒れていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8303o/>

ラジオコントロール

2010年11月10日21時42分発行